

情報公開は何のため？

鳩山法務大臣が死刑を執行

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

12月7日、鳩山法務大臣は3人の死刑を執行しました。大阪拘置所で1名、そして東京拘置所では2名が処刑されました。

1年前の頃はまだ使われてもいなかった東京拘置所の新しい刑場は、この1年間に7人もの死刑を執行したことになります。日本中でこれほどの殺人現場となった場所はありません。

★★★

今回、法務省は執行がなされた直後に、初めて処刑された場所や死刑囚の名前等を公表しました。これまでは人数だけの発表だったので、どこで、誰が処刑されたのかを確認するために、マスコミ各社は関係者に問い合わせ、調査しなければなりませんでした。そのため、執行があると死刑廃止運動団体にも電話が殺到していました。法務省自らが発表したことにより、そのようなことは無くなったそうです。

★★★

しかし、法務省が発表したのはそれだけではありません。処刑された死刑囚の犯した事件の概要を紹介する文書も添えられていました。マスコミの人たちは、それを写せば記事ができるのですから、楽になったと喜んだかもしれません。

しかし、その文書には、その人たちが、再審や恩赦の請求が棄却されたばかりであったり、自ら上告を取下げた人であったり、一番では無期懲役判決であったりしていることには触れていません。執行前の彼らの心身の状態がどうであったかもわかりません。そこには、彼らはこのような酷い事件を犯したのだ、ということしか記載されていません。

報道にたずさわる人たちが、法務省の発表をうのみにすることによって、自らその問題点を発掘する努力を怠るようになってしまうことを怖れます。

★★★

11月に衆参の法務委員会が2度にわたり東京拘置所の刑場視察を行いました。それによって、執行の際には、立ち会う検察官や拘置所長からは見えないようにカーテンが張られていることがわかりました。刑務官の心理的負担を減らすための執行のボタンも3個であること（今まで5個であると思われていました）が確認されました。

こうしたこともあって、死刑に関する情報公開は進んでいるかのように見えます。しかし、それもこれも、「死刑の執行が適正に行われていることについて国民の理解を得る」ためなのです。「不適正に行なわれている」と懸念を抱かれるような情報は今も隠蔽されたままです。

■□■

鳩山法務大臣による死刑執行抗議集会

12月16日（日）午後6時

日本キリスト教会館4階会議室（東西線・早稲田駅5分）

※私たちも今日のビラまき後、合流します。

一緒に参加できる方は声をおかけください。